

「共創力で進む東北プロジェクト」に係る 「情報発信ニーズ」 選定結果（第 2 期第 2 次選定）

- 「共創力で進む東北プロジェクト」は、共創イベント（アイデアソン等）の開催を通じて、東北の復興・創生に係る地域課題の解決に取り組んでいる各種団体の情報発信力の強化や新たなパートナーとのつながりを創出し、地域課題の解決を目指します。
- 自治体、NPO、企業等から情報発信力の強化等を通じて課題解決したいニーズを年間を通じて最大 10 件程度選定し、アイデアソン等を開催して、ニーズに係る解決策の実現に向けて取り組んでいきます。
- 第 1 期及び第 2 期募集において、自治体、NPO、企業等から 28 件の提案があり、今般、第 2 期第 2 次選定として、6 件の選定をいたしました。
- なお、第 1 期及び第 2 期募集で、選定された提案が計 10 件に達しましたので、第 3 期募集は実施いたしません。

※「共創力で進む東北プロジェクト」は、平成 29 年度「共創イベントを通じた情報発信ソリューション構築事業」の通称です。

<選定内容>

- 1 **ダイバーシティを体現する、官民一体のまちづくりスキームの構築**
(一般社団法人 マルゴト陸前高田) (岩手県)
- 2 **シニアプログラマー育成におけるオーダーメイド型教育モデルの場づくり**
(シニアプログラミングネットワーク) (宮城県)
- 3 **被災地外でのファン醸成によるダイレクトコミュニティマーケティング**
(石巻うまいもの株式会社) (宮城県)
- 4 **伝統工芸の継承課題を 3D・VR・AI で解決するオープンプログラム**
(大堀相馬焼 松永窯) (福島県)
- 5 **福島県でのオープンデータプラットフォームの構築**
(福島オープンイノベーション推進コンソーシアム) (福島県)
- 6 **東北におけるインアウトバウンド 2.0 の創出**
(一般社団法人 東北インアウトバウンド連合) (東北広域)

※各事業の名称については、現時点の名称であり、今後変更になる場合もあります。

(添付資料)

- (別紙) 共創力で進む東北プロジェクトに係る「情報発信ニーズ」選定結果 (第2期第2次選定)
- (参考資料) 平成29年度共創イベントを通じた情報発信ソリューション構築事業について



問い合わせ先：

復興庁総合政策班 永井、高田

電話：03-6328-0223

**共創力で進む東北プロジェクトに係る
「情報発信ニーズ」 選定結果（第2期第2次選定）**

名称：ダイバーシティを体現する、官民一体のまちづくりスキームの構築
団体：（一般社団法人 マルゴト陸前高田）（岩手県）

<情報発信ニーズ内容>

陸前高田市は震災以前からバリアフリーなまちづくりを目指してきた。震災後の新たなまちづくりを進めるにあたり、さらに年齢、性別、国籍等の様々な括りにとらわれない、ダイバーシティを意識して取り組もうとしている。

このダイバーシティを意識したまちづくりについて、ハードのみならず、地域における高い意識の醸成など、ソフト領域においても自治体、NPO や、協賛する企業が一体となって取り組むスキームを構築し、その姿勢が世界に発信されることをめざす。

名称：シニアプログラマー育成におけるオーダーメイド型教育モデルの場づくり
団体：（シニアプログラミングネットワーク）（宮城県）

<情報発信ニーズ内容>

地域課題への取組に ICT を活用することは一般的となり、プログラミングは社会的価値を生み出す有力なツールとして定着してきている。若年層への教育は既に進んでおり、シニア層についても、若年層とのコミュニケーションギャップを生ずることなく活躍の場を増やすためにも、効果的な教育が求められる。

シニア層へのプログラミング教育のノウハウが高まりつつある宮城県を中心に、きめ細かなオーダーメイド教育を構築し、地域活動が多世代によって行われる基盤の場づくりを進めると同時に、地域に人材が少ない ICT 要員の候補層を増やし、全国のシニアがプログラムを学べるモデルを東北発で発信していく。

名称：被災地外でのファン醸成によるダイレクトコミュニティマーケティング
団体：（石巻うまいもの株式会社）（宮城県）

<情報発信ニーズ内容>

被災地域の食産業を発展させるためには、大都市などの消費者のミクロなニーズを常に把握し商品開発に反映する必要がある。

震災直後の復興で連携した地域食産業の事業者が、商品競争力のある新商品をつくるために、被災地外の都市部に恒常的なファン層をコミュニティ化するほど巻き込んでいる事例を活用し、消費者コミュニティとの連携で、細やかなニーズやテストマーケティングなどを行い、競争力の高い商品企画が創出されるためのスキームを構築する。

名称：伝統工芸の継承課題を 3D・VR・AI で解決するオープンプログラム

団体：(大堀相馬焼 松永窯) (福島県)

<情報発信ニーズ内容>

「大堀相馬焼」は 300 年以上親しまれてきた国指定の伝統工芸品であるが、職人や後継者の不足が加速しており、一刻も早い後継者の育成が望まれている状況にある。

そこで、伝統工芸の担い手のもつ熟練の技、属人的技能を、3D・VR・AI など最新の ICT 技術でカバーし、技能を後世に残すとともに、次代の担い手となる若者層を引き付ける取組を行う。成果プログラムはすべて公開し、焼き物のみならず、同様の課題をもつ他の伝統工芸品の関係者にも共有していく。

名称：福島県でのオープンデータプラットフォームの構築

団体：(福島オープンイノベーション推進コンソーシアム) (福島県)

<情報発信ニーズ内容>

福島県の復興をめぐる状況は刻一刻と変化しているが、最新の情報を正しく網羅的に引き出せる情報源は少なく、古い情報に基づいた誤解も多い。

そこで、ICT を活用し、自治体、NPO、企業などの復興支援に関する情報を容易に集積でき、オープンに利用できるプラットフォームを構築し、復興支援のほか、福島県での農林水産や観光などの様々な分野へのさらなる発展にもつなげる利活用のシーン創出をめざす。

名称：東北におけるインアウトバウンド 2.0 の創出

団体：(一般社団法人 東北インアウトバウンド連合) (東北広域)

<情報発信ニーズ内容>

被災 3 県を中心とする東北地方と、国内（特に関東以西）やアジア圏各国との観光を通じた人的交流は、復興支援の延長線上の色合いが強く、東北の等身大の魅力などの情報を共有し、交流を作っていくまでには至っていない。

この情報ギャップを解消し、観光・教育・文化などでの交流のレベルをもう一段バージョンアップ（2.0 化）し、インバウンド・アウトバウンド双方で持続発展させるため、SNS やスマホ向けアプリ等の ICT を活用した、「今」の情報発信と相互理解促進のプラットフォームを東北と他地域間で構築する。

以上

平成 29 年度共創イベントを通じた情報発信ソリューション構築事業について

1 概要

「新しい東北」の様々な取組の成果の普及・展開の加速化や、取組の自走化に向けて、地域の取組主体にとって、新たなネットワーク構築や連携先・パートナーづくりのための情報発信力の強化に関するソリューション（課題の解決策）を「オープンイノベーション」手法により、様々な者からアイデアや解決手法の提案を活用して構築するもの。また、本事業の運営や参加者等の動向について、コンテンツ化し、積極的に全国に向けて情報発信を行う。

2 事業の流れ

- 1) 東北の復興・創生に関わる情報発信ニーズを最大 10 件程度募集。
- 2) 上記より選定された課題をもとに、共創イベントを 7 月以降全国 10 か所で開催（東北被災 3 県その他、全国各地等での開催を予定。）。
- 3) 共創イベントで生み出した課題解決のソリューションの具現化に対し、最大 300 万円をサポート。
- 4) 共創イベントと並行し、「週次の交流の場（FW:東北 Weekly）」として、都内等で開催。
- 5) 一連の活動をメディアへ、SNS 等で情報発信。
- 6) 年間の成果発表イベントを平成 30 年 3 月東京で開催予定。

以上